

問題【国語】

次の文では、同じ意味のことばを繰り返した重複表現、重言(じゅうげん)が使われています。繰り返しを避けて、簡潔な言い方に直してみましょう。

いにしえの昔の武士のさむらいが、山の中なる山中で、馬から落ちて落馬したところを、女の婦人に笑われて、赤い顔をして赤面し、家に帰って帰宅して、仏の前の仏前で、短い刀の短刀を使い、腹を切って切腹した。

豆知識 雑学コラム

感じる「違和感」

「馬から落ちて落馬」や「頭痛で頭が痛い」のように、同じ意味のことばを繰り返した表現を重複表現、重言といいます。避けるべきと言われることの多い表現ですが、実は知らないうちに使ってしまう表現でもあります。今回は重言についてみてみましょう。

「馬から落ちて落馬」や「頭痛で頭が痛い」は重言として有名で、聞いたときに不自然な日本語に感じる人も多いと思います。一方、「事前予約」はどうでしょうか。「事前予約」の「予約」は「予め約束しておくこと」で「事前(=物事の前)」という言葉が含まれています。そもそも「事前」でなければ予約しません。しかし「このレストランは事前予約制です」という看板をみても、重言でまわりくどい言い方だなあとは思わないですよね。「事前予約」のように日本語として定着し、重言と思われない言葉もあります。

「違和感を感じる」はどうでしょうか。「違和感」とは「周りとの調和がとれていないと感じること、しっくりこないと感じること」を表す言葉で「違和感を感じる」には「感じる」が重複して入っていることがわかります。重言を避けるには「違和感を持つ」や「違和感がある」という言い方にするのが正しいです。一方で「ある」や「持つ」よりも「感じる」の方が「しっくりこないと感じている」と相手により明確に伝わることから「違和感を感じる」も広く使われる言い回しです。他にも「まず第一に」や「過半数を超える」も重言ですが、「まず」や「過半数を占める」と言う場合より、相手に伝わりやすいということでよく目にしたり、耳にしたりする表現ですよね。

こうしてみると、重言は決して悪い表現ではなく、使いどころによってはより効果的な言い回しになることが分かったと思います。人と話すときは重言を使って、相手に言いたいことを強調して伝えてみましょう。一方、文章を書く時には、重言を避けてより簡潔に文章を書いてみましょう。話し言葉、書き言葉、ともにより相手に伝えるために一番良い言い方を考えて、言葉や言い回しを使いこなしたいですね。

【解答例】

いにしえの昔の武士のさむらいが、山の中、馬から落ちて、女の婦人に笑われて、赤面し帰宅して、仏前で、短い刀を使い、切腹した。